

【第141回生涯教育講座】

排尿障害治療におけるクリニカル・イナーシャ

ほん	だ	さとし	おお	にし	ひろ	き	なか	むら	しげ	のぶ
本	田	聡 ¹⁾²⁾	大	西	浩	生 ²⁾	中	村	成	伸 ²⁾
はま	ぐち	しゅん	いち	たか	はし	のぶ	やま	ぐち	みね	かず
濱	口	俊一 ¹⁾	高	橋	伸	幸 ¹⁾	山	口	峰	一 ¹⁾
まき	いし	てつ	や	わ	だ	こういちろう	しい	な	ひろ	あき
牧	石	徹也 ³⁾	和	田	耕一郎 ⁴⁾		椎	名	浩	昭 ⁵⁾

キーワード：クリニカル・イナーシャ，下部尿路症状，下部尿路障害，
生活の質，過活動膀胱

要 旨

泌尿器科疾患のなかでも特に排尿障害は高齢者に多く，下部尿路症状（Lower urinary tract symptoms: LUTS）における疫学調査で，年齢とともに有病率が増加することが報告されている。“クリニカル・イナーシャ”とは、『治療目標に届いていないにも関わらず，漫然と治療が続けられ，適切に強化されていない状態』を指し，高齢者にはそれを起こしやすい素地があると思われる。過活動膀胱症状スコア（Overactive Bladder Symptom Score: OABSS）は優れた評価ツールであるが，我々の調査において，高齢者では真の症状を反映していない可能性が示唆され，“強化”の前段階である“評価”すら，危ぶまれる場合があることがわかった。また，排尿状態に満足していないにもかかわらず，薬物療法の変更を希望する患者は少ないという事実から，我々は漫然と同じ治療を続けていることが予想された。“クリニカル・イナーシャ”を回避するには，患者の治療に対するモチベーションを高め，患者との良好なコミュニケーションを構築し，それを維持するための心配りを意識する必要があるといえよう。

は じ め に

Satoshi HONDA et al.

1) 島根大学医学部 総合医療学講座 大田総合医育成センター

2) 大田市立病院 泌尿器科

3) 島根大学医学部 総合医療学講座

4) 島根大学医学部 泌尿器科学講座

5) 島根大学医学部附属病院

連絡先：〒694-0063 島根県大田市大田町吉永1428-3

島根大学医学部 総合医療学講座

大田総合医育成センター

最近，“クリニカル・イナーシャ(clinical inertia)”という言葉を目にするようになった。“クリニカル・イナーシャ”とは直訳すると『臨床的惰性』であり、『治療目標に届いていないにも関わらず，漫然と治療が続けられ，適切に強化されていない状態』を指す¹⁾。糖尿病，高血圧，脂質異常症な